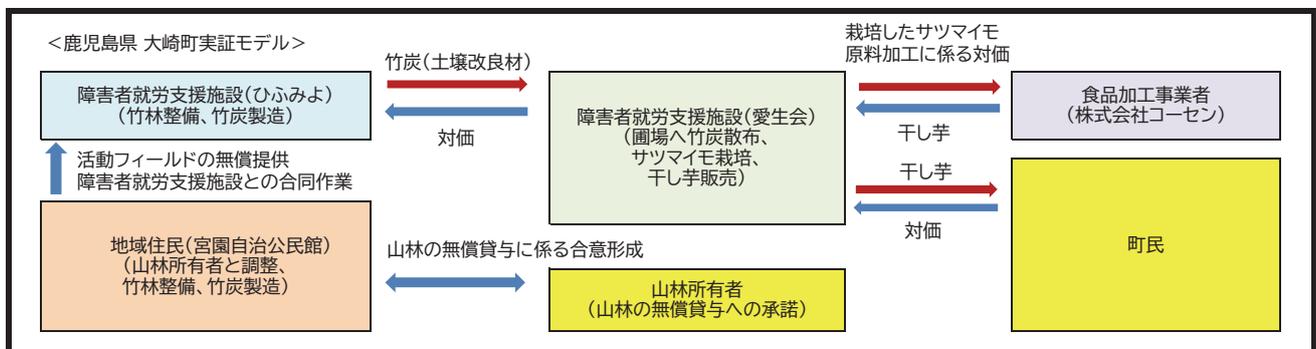




総務省が表彰している「ふるさとづくり大賞」において、『竹福商連携による竹の資源化モデルの構築と実践』に取り組んでいる大崎町政策研究員（慶應義塾大学大学院研究員、鹿児島大学グローバルセンター客員研究員）の田中力氏が【明日への希望賞（総務大臣賞）】を個人で受賞しました。

「ふるさとづくり大賞」は、全国各地で、それぞれのところをよせる地域「ふるさと」をより良くしようと頑張る者を表彰することにより、ふるさとづくりへの情熱や想いを高め、豊かで活力ある地域社会の構築を図ることを目的に昭和58年度に創設されたものです。（平成25年度までは、「地域づくり総務大臣表彰」として実施）

田中研究員は、大崎町の政策研究員として放置竹林の資源化モデルに2022年度から取り組んできました。この取り組みは、障害者就労支援施設、加工業者などが連携し、地域の高齢者や障がい者が放置竹林の整備や竹炭の製造をおこなうモデルを創出したもので、竹炭を土壌改良材として活用したサツマイモの加工により収益化を実現しています。「愛生会の干し芋」は、ノウフクマルシェや大崎町内の販売会などで販売されており、『竹福商連携による竹の資源化モデル』の一連の取り組みが、地域の高齢者や福祉施設の利用者にやりがいや働く意欲を生み出すことに繋げていることなどが評価されました。



大崎町役場  
(企画政策課・農林振興課)

町広報誌やFMおおさき(コミュニティFM局)による広報、開放型炭化器の無償貸出  
実証試験全般への支援活動